

QSK 福精連

公益社団法人福岡県精神保健福祉会連合会
〒812-0046
福岡県福岡市博多区吉塚本町13-50
電話092-292-0560 FAX092-292-0561
e-mail: info@fukuseiren.com
ホームページ http://www.fukuseiren.com/
No. 98 令和元年10月1日

第3回福精連大会 令和元年9月13日

第3回を数える今年度の福精連大会は、北九州ブロックが担当し、北九州市戸畑区の「ウェルとばた」で開催。基調講演並びにパネルディスカッションには168名、その後の懇親会には35名の参加を頂きました。

◎基調講演「自分の強みを活かすと元気になれる」

土屋徹氏(オフィス夢風舎 舎長、元ACT-Jチームリーダー)
千葉県袖ヶ浦市に在住される氏は、本大会の数日前に襲った、台風15号で自宅も被害に遭われた中での福岡入り。家族を支援する「心理教育プログラム」やどんなに重い精神障がい者でも地域で生きることを応援する「包括型地域生活支援プログラム(ACIT)」
「個別就労支援プログラム(IPSS)関連で全国を飛び回っておられます。支援者に日頃より言っている事は、当事者が病気や障がいを持っている事だけに目を向けるのではなく、その人の持っている強み、生きていく力や頑張りを応援しよう。当事者一人ひとりには問題点や出来ない事は必ずあるけれど、病気と闘いながら地域で生活出来ていることをききと見て欲しい。当事者本人の頑張りが一番、支援者が頑張り過ぎないように。当事者の持っている強みを活かしている事例を挙げながら「元気になれる」お話しでした。

◎パネルディスカッション「リカバリーの旅路の伴走車」

コーディネーター 今村浩司氏(西南女学院大学 教授)を迎え3人のパネラーからの報告です。土屋様には、アドバイザーとして参加頂きました。パトリシア・ディーガン氏は「リカバリーは旅(過程)であり、生き方であり、構えであり、日々の挑戦の仕方である。平坦な一本調子の直線的な旅(過程)ではない。時に道は不安定となり、つまずき、旅の途中で止まってしまうこともある。けれど、気を取り直してもう一度始めることもできる。この旅で必要とされるのは、障がいへの挑戦を体験すること。障がいによる制限の中、或いはそれを超えて、健全さと思えという新しく貴重な感覚を再構築することだと。リカバリーの旅で求めている事は、地域の中で普通に暮らし、働き、愛し、そこで自分が重要な貢献をする」と述べられました。(http://recoverycollege.jp/tachikawa/rc-tachikawa/whatisrecoverycollege/qa15用)



うに拘れば良いのかを一緒に考えて行きたい。次に昨年7月福精連企画のイタリア視察の報告があり精神病院をなくし、地域で生活することを前提とした取り組みが国として行われている現状を見て日本との大きな違いを実感した。文化や風土の違いイタリアでの取り組みを知り、新たなヒントを早いうちに身につけたい。

(1) 医療支援者として 渡邊真里子氏(ちはやACTクリニック)
本人のリカバリーには家族の力は大きな追い風になるが、いずれは離れ、それぞれの人生を歩んで行くことになる。言い換えると家族のリカバリーの過程かも。そのため3つのステップとして、①情報を得る
②対話と想像の空間を作る ③それぞれのリカバリーを提案。①は、日本の今の現状を踏まえ、誰でも閲覧できる「ちはや」地域精神保健医療福祉社会資源データベース(https://rehrad.nep.go.jp)を紹介され、その後、多職種支援の実際を紹介しながら必要な支援を自分達で選択し、進みたい道を歩むヒントを皆様と一緒に考えたい。

(2) 家族支援者として 平山計子氏(はまゆう家族会)
発症当時、娘さんを「立ち直らせる」ことだけを考えていたが、家族会に参加するようになってからは、いろんな症状の奥には、不安、孤独、これまでに我慢してきた事とただで、娘さんの「心の叫び」「心の痛み」を知ろうとしたいなかつた事に気づいた。ありのままの娘さんを受け入れることで、平山さん自身が成長させて頂いているとの謙虚な言葉で締められた。笑顔で明るく語る母の強さを見ました。

(3) 事業所支援者として 田原恭子氏(スマイル門司)
リカバリーに向かう事業所利用者を紹介。悩んだり苦しんだりしながら、事業所の活動を通して病気と向き合いながら自分らしく生きる道を選択していく様子を伝えられ、その中で支援する立場の職員がどのように関わっているのか、どのようにに拘れば良いのかを一緒に考えて行きたい。次に昨年7月福精連企画のイタリア視察の報告があり精神病院をなくし、地域で生活することを前提とした取り組みが国として行われている現状を見て日本との大きな違いを実感した。文化や風土の違いイタリアでの取り組みを知り、新たなヒントを早いうちに身につけたい。



スポーツレクリエーション大会

【筑後地区】
日時：10月11日(金)
場所：朝倉市体育センター 運動会
【北九州地区】
日時：10月18日(金)
場所：直方市体育館 風船バレー

福岡ブロックは9/18に終わりました。詳細は次号をお楽しみに！

※賛助会員加入のお願い

令和元年度の賛助会員の募集を行っています。新規加入及び継続更新の手続きをお願いします。

会費 個人3千円・団体1万円

郵便局振込先

加入者名 (公社) 福精連

口座番号

01760-7-84332

月間「みんなねっと誌」を購読しませんか？

賛助会費(会費に購読料を含む) 個人年間3,600円

※団体は一部還元があるのでお問い合わせ下さい

お問合わせ先 みんなねっと

電話番号03-6907-9211

郵便振込先

加入者名 みんなねっと

口座番号 0013000338317

行事案内

【第3回理事会/拡大会議】
令和元年10月25日(金)
時間：10時30分/13時30分
場所：吉塚

【福岡県こころの健康づくり大会】
令和元年11月6日(火)
時間：13時
場所：北九州市ウエルとばた

【みんなねっと全国大会】
令和元年11月7日(8日)
場所：愛知県刈谷市総合文化センター

【映画上映会】
令和元年11月16日(土)
時間：10時/17時
場所：春日市ふれあい文化センター

【第2回運営委員会/第2回家族職員研修会】
令和2年1月24日(金)
時間：10時30分/13時30分
場所：吉塚

【みんなねっと九州ブロック大会】
令和2年1月30日/31日
場所：沖縄県那覇市 パシフィックホテル

【第2回事業所部会/第3回家族職員研修会】
令和2年2月21日(金)
時間：10時30分/13時30分
場所：吉塚

【第3回運営委員会】
令和2年3月6日(金)
時間：15時00分
場所：吉塚

【第4回理事会/予算総会】
令和2年3月19日(木)
時間：10時30分/13時30分
場所：吉塚

令和元年度 賛助会員のみなさま

- ・医療法人社団桜珠会 可也病院
- ・医療法人成晴会 堤病院
- ・医療法人社団松和会 門司松ヶ江病院
- ・特定医療法人天臣会 松尾病院
- ・医療法人みらい 筑紫野病院
- ・島手そらめん販売
- ・医療法人社団 堀川会 堀川病院
- ・介護老人保健施設 城山荘
- ・医療法人陽山会
- ・油山病院 家族会 あけぼの会
- ・パナソニック松九会
- ・寿防工業株式会社
- ・医療法人信和会 大牟田保養院
- ・医療法人同仁会 乙金病院
- ・井尻メンタルクリニック
- ・おか医院
- ・三善病院
- ・医療法人こぶしメンタルクリニック
- ・エイテックス株式会社
- ・医療法人成康会 堤小倉病院
- ・一般社団法人Q-I-ACT
- ・ちはやACTクリニック
- ・個人会員
- ・本田 俊慧 内原 守
- ・隅谷 和生 白石 雄二 富松 愈
- ・六反 敏裕 樋口 靖則 井上 純治
- ・岩井 隆 阿部 利民 廣津 輝男
- ・末安 良光 金子 義郎 富田 義之
- ・馬場 由紀子 菅野 康子 君嶋 美智子
- ・福田 清隆 小野 雄史 永末 雄大
- ・藤田 正躬 川口 千利 舟越 洋
- ・江里口 充 松山 英人 田川 裕二
- ・石田 健治 坂栗 さつき 伊福 深一
- ・杏脱 信行 佐々木 寿美 宮崎 富夫
- ・榎橋 恭一 徳久 照道 渡邊 尋志
- ・富永 貴美子 入江 真佐子 寺崎 博光
- ・福岡 喜儀 篠原 雅子 川本 茂子
- ・満崎 いち子 藤島 美美子 乙村 未沙貴
- (敬称略・順不同)(令和元年9月20日現在)
- ・斉藤 光子
- ・土肥 浩
- ・小川 藤香
- ・石河 定子
- ・古田 一恵
- ・森 慶一
- ・田原 恭子
- ・野澤 重信
- ・鈴木 久子
- ・西 伸好
- ・金子 勇人
- ・藤 みよ子
- ・立山 利博



皆様のご協力に感謝致します。ありがとうございました。

【編集】公益社団法人 福岡県精神保健福祉会連合会 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 6F
【発行】QSK九州障害者定期刊行物協会 〒812-0054 福岡市東区2-2-18
【年会費】3,000円(購読料含む) 定価100円

この機関紙【福精連】は、共同募金の配分金によって作成されたものです。

家族会 紹介

しのめ福祉会

会長 菅野 康子

当時の名称「福岡地区精神障害者家族会しのめ福祉会(略称)」は福岡地域全体を対象にした、いわゆる草分け的な存在として結成されたのが昭和60年でした。2年後、家族が金品を持ち寄り、しのめ共同作業所が藤島美美子氏を初代所長として開所されました。市内全域、遠くは二日市や朝倉方面から通所する利用者もいたほです。

精神保健法の改正により、平成6年には福岡県初のグループホーム「若葉荘」を開設し、手探りで運営を始めました。家族会の事業は月1回の例会、作業所、グループホームの運営、集いの主催など多岐に亘り、会員は手弁当で頑張りました。平成15年には社会福祉法人福岡あけぼの会の誕生で、家族会も会費の預貯金全額を浄財として寄付いたしました。

平成18年、自立支援法の下、事業所が家族会の手を離れた事により家族の気持ちも勢いが衰え、休会状態となりました。

しかし、家族会で大切な支え合いや学び合う場が必要だとの呼びかけがあり、6年目に再開の運びとなりました。再開を喜んで参加してくれた古い会員と、比較的若い家族の方々が入会したことにより、学ぶことに意欲を持ち、行動力ある若い会員に古い会員は良い刺激を受けています。10月から家族による家族学習会に向けて準備中です。



しのめ福祉会は今、元気です。

こども版家族学習会セミナー福岡

7月14日(日)「こども版家族学習会セミナーin福岡」を福岡県吉塚合同庁舎6階会議室にて、13時30分より16時30分までのスケジュールで開催しました。このセミナーは、東京・大阪・札幌に続くもので、当日はあいにくの雨模様でしたが、埼玉県立大学横山教授を講師に迎え、こどもの立場の方15名、パートナーやきょうだい・親の立場の方6名、支援者6名、久留米大学准教授、広島県立大学准教授、福岡市保健福祉局長、読売新聞社、こどもびあ東京2名、こどもびあ大阪2名、こどもびあ福岡4名、みんなねっと事務局1名、福精連1名の総勢40名を超える方に参加頂きました。

横山先生の講義に始まり、「こどもの立場の方」の体験談発表の後、学習会セミナーの導入部分を学習体験しました。質問や意見が活発に行われたこのようなセミナーを進めることが出来たことを嬉しく思いますし、参加者の皆さまのご協力に感謝致します。

参加者アンケートを見ると、今後「子ども版家族学習会」に参加を希望する方が居られました。「こどもの交流会」に新規での参加を希望する方が居られました。

今回のこども版家族学習会で感じたことですが、未だ地域の社会資源に繋がっていない方をどのようにして繋げていくか、啓発活動が我々に強く求められていると感じた次第です。文責・福岡こどもとパートナーの会 金子 勇人

みどりの会

会長 義 光則

北九州精神障がい者家族会連合会(あかつき会家族会)小倉地区の家族会である「みどりの会」は、平成2年9月に小倉北区の保健所において産声を上げました。元来、独自で活動していた市民の会「わらびの会」44名が集まり、家族会の名称、運営方針、年間の活動行事や会費など話し合っただけです。何もないとことから、偏見や差別が今より強く厳しい時代を家族会で癒され、結束し、今につながる社会サービスを実現させてきました。

現在は会員45名ですが、あたたかい雰囲気の中、悲しみや辛さを抱えた重荷が少しでも軽くなるよう皆で語り合い、分かち合い、学び合うところは今も昔も変わりません。研修会、勉強会、家族による学習会、歌で明日も元気になる会、映画上映会やスポーツ大会の応援と参加、家族同士の交流... それに加えてインターネットによる情報を共有し、実際に施設見学など、役員の仕事を支える補佐という制度で会員皆で「みどりの会」を盛り立てています。時代は変わっても皆でじっくり考え、話し合う事が自慢です。



家族・職員研修会(令和元年6月21日)

テーマは「B型事業所の進む道」と題して、職員中心に37名が参加。前半は3名の講師の方に登壇いただきました。セルブゼンター福岡から城谷様、ほのほのHaka Taから森様、NPO法人抱樸から山田様をお迎えし、それぞれの立場から就労継続支援B型の現状と課題について報告をいただき、事業所部会の村上氏がコーディネーターを務め、まとめていただきました。城谷様からは、工賃向上が職員の至上命題であること、生活支援も大切なこと、職員がそこに安住して就労支援をおろそかにしてはいけないとの熱いメッセージをいただきました。

森様からは、利用者工賃向上のために「障害年金と工賃だけで生活できるように」との目標を掲げ、主たる事業所(高い工賃)と従たる事業所(居場所)でサービス提供内容を分けて、自主製品の販路拡大に取り組んだこと、利用者のニーズに応じた作業提供が今後の課題との報告をいただきました。

山田様からは、ホームレス支援として抱樸の歩んできた背景の中に、障害のある方も少なからず居られ、就労支援や居場所としての支援が必要となつてきているとの現状を報告いただき、自立支援の為に就労支援に取り組み、法人としてダイバーシティ型の生活・就労支援に今後とも注力していきたいとの想いを語っていただきました。

研修後半は、シンポジウムを受けてグループワークでフリートークを行い、発表して頂きました。主に工賃や居場所のあり方についての議論が多かったようです。高い工賃を達成できている所の工夫を各事業所で共有することや働く希望を持ちつつも体調が安定していない精神障害者の安心できる居場所づくりが今後ますます必要となつてくるとの認識を改めて感じた所です。文責・上釜光輝(木の香らんど)



令和元年度家族相談集計

4月: 66件 5月: 71件 6月: 75件 7月: 84件 合計296件

【相談時間: 平日13時~16時】
月曜日 090(1366)7498
火曜日 080(2750)0646
水曜日 (第4のみ) 0940(33)2731
水曜日 (第4以外) 080(3986)1980
木曜日 080(3986)1980
金曜日 080(4279)2970

※曜日毎 各地域ブロックで電話相談を受け付けております。



ドキュメンタリー映画 「精神病院のない社会」 上映会決定

11月16日(土) 春日市ふれあい文化センター(サンホール)

午前午後と2回上映致します。ご都合のつく時間帯にお越しください。12時45分からは本映画の監督大熊一夫さんの講演会もあります。お誘い合わせの上、ご来場ください。詳細・申込は別紙(会報付録)をご覧ください。

